

令和6年度 第2回能登町復興推進委員会

日時 令和6年5月28日(火)

午後3時～

場所 能登町役場2階大集会場

次 第

1 開 会

2 挨拶

3 報 告

- (1) 第1回復興推進委員会後の状況について
 - ・復興まちづくり意見交換会について
- (2) (仮称)石川県創造的復興プラン(案)の発表について

4 議 題

- (1) 能登町復興計画(素案)について
- (2) 住民アンケート調査項目について

5 その他

- (1) 部会の日程について

6 閉 会

【配布資料】

- ・ 席次表
- ・ 能登町復興推進委員会名簿
- ・ 復旧ロードマップ
- ・ 復興まちづくり意見交換会について
- ・ (仮称)石川県創造的復興プラン(案)概要版
- ・ 住民アンケート調査項目(案)
- ・ 能登町復興計画(素案)・・・・・・・・別冊
- ・ 推進委員会部会の開催案内について・・別紙

第2回 能登町復興推進委員会 席次表

<p>○ 芳野敏之委員</p> <p>○ 森進之介委員</p> <p>○ 小野田泰明委員</p> <p>○ 金七聖子委員</p> <p>○ 谷内江昭委員</p> <p>○</p>	<p>○ 豊若裕治委員</p> <p>○ 高木功次郎委員</p> <p>○ 西出 稔委員</p> <p>○ 中田洋助委員</p> <p>○ 玉地正幸委員</p> <p>○ 水元圭介委員長</p> <p>○ 重野さとみ委員</p> <p>○ 千間純二委員</p> <p>○ 坂口浩二委員</p> <p>○ 小坂 智委員</p> <p>○ 川崎時夫委員</p> <p>○ 坂上信彦委員</p>	<p>○ 復興課長</p> <p>○ ふるさと振興課長</p> <p>○ 災害廃棄物対策室長</p> <p>○ 企画財政課長</p> <p>○ 教育委員会事務局長</p> <p>○ 教育長</p> <p>○ 副町長</p> <p>○ 町長</p> <p>○ 復興推進課長</p> <p>○ 総務課長</p> <p>○ 建設水道課長</p> <p>○ 上下水道担当課長</p> <p>○ 農林水産課長</p>	<p>○ 事務局長</p> <p>○ 危機管理室長</p>	<p>○ 辻野 実委員</p> <p>○ 蔽下哲也委員</p> <p>○ 鶴野薫子委員</p> <p>○ 池崎万穂委員</p> <p>○ 福池 功委員</p> <p>○ 上野朋子委員</p>
---	--	---	-------------------------------	---

ス テ ー ジ







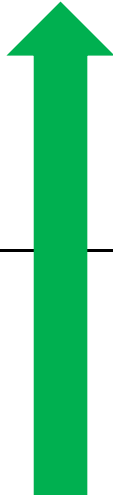


能登町復興推進委員会 委員名簿

(R6.5.1~R7.4.30)

委員区分	氏名	役職等	委員会 役職	専門部会	
				住まいと暮らし 安全地域	産業経済
公共的団体等の役員 又は関係諸団体の代 表が推薦する者	坂上 信彦	能登町町会区長会連合会 会長	副委員長	○	
	川崎 時夫	能登町町会区長会連合会 副会長		部会長	
	小坂 智	能登町町会区長会連合会 副会長		○	
	坂口 浩二	能登町校長会 代表		○	
	千間 純二	能登北部医師会 会長		○	
	重野さとみ	能登町婦人団体協議会 会長		○	
	水元 圭介	能登町観光協会 副会長	委員長		○
	玉地 正幸	能登町商工会 青年部長		○	
	中田 洋助	石川県漁業協同組合			○
	西出 穰	能登農業協同組合			○
	高木功次郎	能登森林組合			○
	豊若 裕治	興能信用金庫 復興支援部主任調査役			○
町民	辻野 実	株式会社 SCARAMANGA 代表			部会長
	藪下 哲也	株式会社 松寿 代表			○
	鶴野 薫子	会社員			○
	池崎 万穂	会社員		○	
	福池 功	北能産業 株式会社 代表		○	
	上野 朋子	会社員			○
	芳野 欽之	芳野会計グループ 代表			○
	森 進之介	能登町定住促進協議会 事務局次長		○	
	金七 聖子	松波酒造 株式会社 若女将			○
学識経験を有する者	小野田 泰明	東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻教授		○	
	谷内江 昭宏	金沢大学能登里山里海未来創造セン タ ー 里山里海創造WG座長		○	

区分	氏名	役職等	主な分野	備考
能登町復興推進 アドバイザー	今村 久美	認定特定非営利活動法人 カタリバ 代表理事	教育	
	島田 由香	株式会社 YeeY 共同創業者/代表取締役	関係人口	
	高橋 博之	株式会社 雨風太陽 代表取締役	生業・農林漁業	
	肥田 浩	一般社団法人 OPEN JAPAN 副代表	被災者支援	

復旧ロードマップ

No.	対策項目	令和6年			令和7年			令和8年			令和9年		
		1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月		
1	道路・ 土木構築物	・道路・河川の復旧											
2	上下水道 施設	・被災した上下水道施設の復旧・耐震化の推進											
3	農林漁業 施設	・農林漁業施設等の復旧											
4	仮設住宅	原則入居から2年間											
5	災害公営住宅	意向等アンケート調査の実施			用地・造成・設計・工事			完成					

※上記内容は、令和6年5月16日時点の予定です。内容が変更とありますのでご了承ください。

復興まちづくり意見交換会参加者数について

日 時	地 区	会 場	参加者数	参考(人口)	
5月17日 金	午前10時	瑞穂	瑞穂公民館	43	674
	午後2時	神野	神野公民館	38	405
	午後6時半	高倉	高倉公民館	34	954
5月18日 土	午後6時半	宇出津	役場大集会場	68	3,629
5月20日 月	午後2時	不動寺・秋吉	内浦総合支所	26	不260 秋416
	午後6時半	松波	内浦総合支所	47	1,791
5月21日 火	午後2時	上町	上町公民館	31	840
	午後6時半	柳田	柳田公民館	37	1,255
5月22日 水	午後2時	小間生	小間生公民館	15	333
	午後6時半	小木	小木地域交流センター	44	1,935
5月23日 木	午後2時	岩井戸	岩井戸公民館	19	310
	午後6時半	白丸	白丸公民館	53	557
5月24日 金	午前10時	三波	三波公民館	21	586
	午後6時半	鵜川	鵜川小学校体育館	66	831
5月25日 土	午後1時半	町外に避難されている方	県地場産業振興センター	22	
合計				564	14,776

会場の様子



復興まちづくり意見交換会（5/17～5/25）の主な意見・要望等（速報）

1 インフラの早期再生と強靱化

- 1 道路の補修状況を教えてほしい。
- 2 主要道の優先的復旧が必要。通行するたびに悪化している箇所も見られ、復旧だけでなく道路の強化をお願いしたい。
- 3 歩道の修繕が終わっていないため、車道を歩いている。通学路でもあり祭りもくるので対応が必要。
- 4 橋に発生している段差を修繕してほしい。
- 5 現在も道路と護岸が沖の方に少しずつ動き、隙間が広がっている。少しの波でも海水が溢れるので、対応が必要。
- 6 新港の埋立地は陥没が多い。
- 7 上下水道管の耐震化を進める予定があるか。
- 8 水道配管の複線化はできないか。
- 9 下水のマンホールが液状化で浮いており、応急措置はしてあるが、早く切り下げしてほしい。
- 10 林道について、ロードマップで説明があったとおり3年間で復旧されるのか。

2 くらしと地域コミュニティの再建

- 1 公費解体の実施状況を公表してほしい。
- 2 自費解体の廃棄物を公費解体と同様に無償で受入れてくれるのか。
- 3 自費解体の道しるべを示してほしい。
- 4 今後の住まいに関して悩んでいるため、仮設住宅の居住期間を2年間に限定せず延長してほしい。
- 5 仮設住宅の除雪対応はどうなるのか。
- 6 災害公営住宅の入居時期はもっと早められるのではないか。
- 7 住宅解体後どうしたら良いかわからない。お年寄りが生涯住めるような住居を用意いただけると有難い。
- 8 津波被害があったため、高台に災害公営住宅を建設して安全に住めるという案を示してもらえると安心できるのではないか。
- 9 一部損壊の住宅にも修理費の支援をお願いしたい。
- 10 公費解体後の再建パターンやスケジュールがあるとわかりやすい。
- 11 宅地の危険度調査士を派遣して、応急復旧を伴奏支援いただきたい。
- 12 土地境界の調査費に対する支援をお願いしたい。
- 13 被災した集会所の修繕について、町の支援をお願いしたい。
- 14 全国事例を踏まえ、地域コミュニティを創造する新たな公民館（老朽化した公民館の改修）を検討してほしい。
- 15 被災した神社の再建について、町の補助があるか教えてほしい。

3 生業（なりわい）の再建

- 1 生業、経済がないと過疎が進む。
- 2 生業再建については後継者の問題とセットで考える必要がある。
- 3 前を向いていける事業所には、どんどん進みやすい政策を組んでほしい。
- 4 農機具の購入に係る補助制度などについて、面積要件を緩和してほしい。
- 5 農業の規模拡大への支援について、県が上乘せ支援するなら町も追随してほしい。
- 6 能登町といえばブルーベリーと言われる方策を出してほしい。
- 7 雇用は維持だけではなく、拡大が必要。
- 8 移住してでも能登の復興と仕事をしたいという人のため、雇用促進住宅のようなものがあるといい。
- 9 若者が戻ってきたときに働く場所があり、家族そろって暮らせる魅力ある町として復興してほしい。

4 安心して暮らし続けられるまちづくり

- 1 七尾に行かないと出産できないため、人口減を食い止めるためにも能登町内で病院を整備してほしい。
- 2 子どもが安心して遊べる場所が必要。（特に石川県の気候を考えると屋内で遊べる場所を整備してほしい）
- 3 子どもが安心して遊べる場所が必要。（海や山等の屋外で安全に遊べるよう見守りする方を配置できないか）
- 4 健康増進施設である「なごみ」を早期再開してほしい。
- 5 内浦球場や体育館の早期復旧をお願いしたい。
- 6 松波小学校の今後の復旧・修繕について教えてほしい。
- 7 松波小学校は、建て替えではなく、宇出津小学校との統合を検討してほしい。
- 8 学力格差の問題があるため、教育に力を入れてほしい。
- 9 高校生の通学や一般の方の買い物、病院通い等に不便であるため、バスの便を改善してほしい。
- 10 今回の地震を踏まえたハザードマップの更新・周知をお願いしたい。
- 11 次の災害に備え、避難所運営や備蓄物資等の防災対策を進めてほしい。
- 12 中学校の避難所環境は劣悪だった。発災を前提に避難所を整備するつもりがあるか。
- 13 避難所運営に携わっていたが、インターネットがつながらず、町民で閲覧できる人は限られたため、広報媒体は検討してほしい。
- 14 飲み水の確保のため、非常時に井戸を活用できるようにしてほしい。
- 15 津波対策をしっかりと計画に盛り込んでほしい。
- 16 津波被害があった地区として、防波堤を作るのか、高台に移るのか議論したい。
- 17 安心して暮らし続けるまちづくりには消防団が必要不可欠であり、重きを置いて考えてほしい。
- 18 志賀原発について、陸路避難の難しさが明らかになったため、宇出津港を整備し、海上避難を検討できないか。

5 復興プロジェクトの創出

- 1 スクールバスやコミュニティバスを自動運転の町にすることも可能でないか。
- 2 海洋深層水を活用した公衆浴場を整備してほしい。
- 3 廃校予定の小木中学校の体育館、校舎、グラウンドを復興に活用できないか。
- 4 小木地区から地の利を活かし、黒部魚津や糸魚川と海上交通をつなげることができないか。大規模な設備投資は不要で港湾施設の整備で実現可能と考えている。
- 5 2拠点や3拠点で生活する人に向け、素晴らしいまつり文化を伝える能登半島全てのまつりに参加するプロジェクトをやっても良いと思う。
- 6 発酵食（いしり）は防災保存食にも活用できるため、発展に向けて知恵を出し合いたい。
- 7 能登町が県内の消滅自治体ワースト1位との報道あり。若い人に能登町にきてもらえるよう、復興計画に盛り込んでほしい。
- 8 日本で一番魅力的な計画、夢のある計画を打ち出さないと、子ども・子育て世代・若い女性は残らない。

6 その他

- 1 意見交換会をこの時期に15回も開催するのは、能登町がいかに住民の声を大事にしながら進めようとしているのがよくわかる。
- 2 意見交換会は1回だけでなく参加しやすい時間帯も設定し、20代や30代の意見も取り入れるようにしてほしい。
- 3 今後、中学生や高校生等の若い方と意見交換をする予定はあるか。若い方の意見を聞いてほしい。
- 4 若い方だけでなく、年配の方へも配慮した復興計画としてほしい。
- 5 他地域の意見交換会における意見を聞いて、自分たちの地区独自の復興を考える必要があると思った。
- 6 能登町だけで復興するのではなく、近隣町村と連携した奥能登全体の復興計画が重要。
- 7 復興計画の作成プロセスについて、県や国からのフィードバックはあるか。策定後も適宜見直しが必要になると思うが、具体的方法はあるか。

<プランの構成>

- 序 章・・・「能登らしさ」
- 第1章・・・「被災状況」
地震の概要、県内における被害の状況
- 第2章・・・「創造的復興に向けて」
創造的復興の必要性、スローガン、創造的復興に向けた基本姿勢
- 第3章・・・「プランの位置づけ、対象期間、対象地域」
プランの位置づけ、期間、対象地域、創造的復興に向けたさまざまな声
- 第4章・・・「創造的復興に向けた取り組み」
施策体系、創造的復興リーディングプロジェクト、具体的取組、タイムライン
- 第5章・・・「推進体制と進捗管理」
多様な主体との連携・協力、復興財源の確保、進捗管理、検証と後世への伝承

石川県創造的復興プラン（仮称）案 概要

<プランの位置づけ>

「創造的復興の実現に向けた羅針盤」

県成長戦略に基づく施策の推進を県政運営の基本としつつ、地震からの復興に関する事項は、本プランに基づき推進。

<対象期間>

県成長戦略の目標年次である令和14年度末までの9年間

- 「短期」（2年後の令和7年度末）
- 「中期」（5年後の令和10年度末）
- 「長期」（9年後の令和14年度末）

<創造的復興に向けて>

- ・「地域が考える地域の未来を尊重する」
 - ・「あらゆる主体が連携して復興に取り組む」
 - ・「若者や現役世代の声を十分に反映する」
- など12の基本姿勢に基づき、創造的復興リーディングプロジェクトをはじめとする取り組みを通じて、創造的復興を成し遂げる。

創造的復興のスローガン

創造的復興のスローガン

能登が示す、ふるさとの未来 Noto, the future of country

能登は、人々にとっての特別な地です。私たちが当たり前のものと思ってきた能登の美しい自然、そして歴史が培った文化は、世界にも誇れる未来に継承すべき唯一無二の財産です。また能登は、多くの課題を抱える日本にとっての様々な課題の先進地でもあります。

そんな能登に、年の始まるその日に発生した大震災。この痛みと悲しみを乗り越え、これを未来へと続く新たな始まりとしたい。能登が創造的復興を成し遂げ、自然と文化が真に共生する持続的な地域の姿を示すことは、大切な能登を未来に紡ぐだけでなく、日本、そして世界中のあらゆるふるさとの希望の光となります。

能登が持つ自然や文化の普遍的な価値に新たな価値を融合し、全国そして世界から再び注目を集め、理想とされる能登の未来を創り上げることを目指す、という決意を表しています。

施策の4つの柱

施策の4つの柱

1 教訓を踏まえた災害に強い地域づくり

インフラや施設の早期復旧と強靱化、災害廃棄物の処理促進、復旧事業者や支援者への支援、復旧・復興を通じた関係人口の拡大 など

2 能登の特色ある生業（なりわい）の再建

被災した事業者の早期再建に向けた支援、農林水産業の再建、伝統工芸産業や商店街の再建、観光産業の再建、新たなビジネスの創出 など

3 暮らしとコミュニティの再建

暮らしと住まいの再建、祭りや文化財の再建、文化・スポーツの力の活用、地域公共交通の再建、デジタル活用などスマートな生活の実現 など

4 誰もが安全・安心に暮らし、学ぶことができる環境・地域づくり

医療・福祉・子育て支援体制の充実強化、学びの環境の再建、豊かな自然環境を活かした能登の魅力の向上、被災者・被災地支援の充実、危機管理対応の充実と震災の検証 など

このうち、創造的復興の象徴的プロジェクトを「[創造的復興リーディングプロジェクト](#)」と位置づけ

創造的復興リーディングプロジェクト

(取組1) 復興プロセスを活かした関係人口の拡大

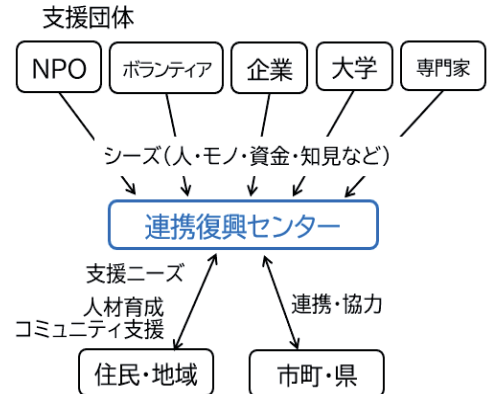
今回の震災により人口減少のさらなる加速が懸念される能登において、震災を乗り越え、さらに地域の活力を維持向上させていくため、関係人口の拡大に向けて必要な施策を検討します。

<内容>

- 能登地域の特性に対応した「二地域居住モデル」の検討
- 官民連携の「連携復興センター」の設置
- 農林水産業ボランティアの受入促進
- 能登への移動時間の短縮 など



(写真) 石川県観光連盟



創造的復興リーディングプロジェクト

(取組2) 能登サテライトキャンパス構想の推進

今回の地震により、今後、能登が防災や復興などの教育・研究フィールドとして活用されることが見込まれるため、交流人口や関係人口の増加につながるよう取り組みます。

<内容>

- 復興に関わる県内外の大学生等の受入促進
- 金沢大学「能登里山里海未来創造センター」など高等教育機関との連携
- 学生の祭りへの参加促進による伝統文化に触れる学びの場の創出 など



金沢大学能登里山里海SDGsマイスタープログラム

(取組3) 能登に誇りと愛着が持てるような「学び」の場づくり

誰一人取り残さない学びの場を提供するとともに、震災の教訓を生かした創造的復興教育や、ICTの活用、能登地域の各高校の連携・交流などによる質の高い学びを実現します。

また、能登の子どもたちがさまざまな活動に参加でき、能登に住む若い世代が家庭や子育てに夢を持ち喜びが感じられるよう、健やかな子育てや学びを享受できる環境整備を進めます。

<内容>

- ICTを活用した遠隔授業など学習環境整備
- 能登の各高校間の連携・交流による魅力ある学校づくり
- ふるさとの価値を実感し、国内外の生徒との交流や課題解決型学習を進める創造的復興教育の推進
- 能登で子育てがしたいと感ずることができる環境整備 など



(写真) 能登高校HP

創造的復興リーディングプロジェクト

(取組4) 新たな視点に立ったインフラの強靱化

今回の地震では、道路、電気、上下水道、通信などが壊滅的な被害に見舞われましたが、壊れたインフラの原形復旧に促されることなく、強しなやかで使いやすく、サステナブルで新たな価値を創造するインフラの実現を目指し、復旧・復興に取り組みます。

<内容>

- 道路強靱化と里山里海との調和を図り、能登半島沿岸部の回遊性を高める「能登半島絶景海道」の整備 など



(堂ヶ崎 (珠州市))

(取組5) 自立・分散型エネルギーの活用などグリーンイノベーションの推進

従前の「線をつながるインフラ」に加え、自立・分散型の「点でまかなうインフラ」も選択肢の一つとするなど、能登におけるグリーンイノベーションに向けた先進的な取り組みを進めます。

<内容>

- 自立分散型のオフグリッド集落の整備
- 住宅や事業所におけるグリーンイノベーション (太陽光発電や蓄電池等の普及)
- 環境負荷の小さい電気自動車によるグリーンドライブの推進 など



創造的復興リーディングプロジェクト

(取組6) のと里山空港の拠点機能の強化

奥能登の中央部に位置し、能登の各地域ともつながる交通の要衝であるのと里山空港を人・物・資金が行き交う様々な社会機能の中核となる拠点として更なる機能強化を図ります。

<内容>

- 定期便に加え、プライベートジェット等の航空利用の促進
- 災害時における防災拠点としての機能強化 など



(空港上空からの眺望)



(着陸した自衛隊機)

(取組7) 利用者目線に立った持続可能な地域公共交通

地域住民の生活の足として、さらに能登の交通結節点であるのと里山空港・のと鉄道からの二次交通としても重要な地域公共交通のあり方について、市町や交通事業者などと連携し、利用者のニーズを丁寧に汲み取りながら、将来の能登の姿を見据えた、地域公共交通のリ・デザイン (再構築) に向けた協議を行います。

<内容>

- 自家用有償旅客運送やAIオンデマンド型交通、自動運転などの導入 など



(写真) 小松市

(小松市で運行されている自動運転バス)

創造的復興リーディングプロジェクト

(取組8) 奥能登版デジタルライフラインの構築

今回の震災では、デジタル技術が物資の支援や被災者・避難所等の状況把握などで活用されました。こうした経験を踏まえ、国や市町とも連携し、平時から災害時までフェーズフリーで、状況に関わらず活用が可能な「奥能登版デジタルライフライン」の構築を目指します。

<内容>

- 公民館等を活用したモビリティ・ハブの検討
- ドローンを活用した物流配送の確立
- マイナンバーカードの普及促進と公共施設等での新たな利用の検討 など



(ドローンによる支援物資輸送)

(取組9) 能登の「祭り」の再興

能登の各地域に存在する数多くの祭りは、地域の魅力を高めるとともに、地域への誇りや愛着を育み、能登の絆をつなぐ大きな役割を果たしています。こうした祭りを絶やすことなく未来に継承していくことで、震災を乗り越え、地域コミュニティの再建につながるよう取り組みます。

(写真) 石川県観光連盟

<内容>

- 祭り用具の補修や新たな調達等に対する支援 など



(あばれ祭り (能登町))



(青柏祭 (七尾市))

創造的復興リーディングプロジェクト

(取組10) 震災遺構の地域資源化に向けた取り組み

地震による被害や教訓など後世に伝えるべき歴史的・文化的価値を持つ遺構について、国等による学術的な調査を進めるとともに、地元の意向も踏まえながら、震災遺構の地域資源化に向けて保護・活用方策を検討します。

<内容>

- ジオパークなど震災遺構の地域資源化に向けた調査・検討 など



(黒島漁港 (輪島市))

(取組11) 能登半島国定公園のリ・デザイン

能登の最大の魅力ともいえる壮大な自然環境や農山漁村の原風景は、未来へと継承すべきかけがえない財産です。里山里海に育まれた多様な生物資源の適切な保全を図ることはもとより、地域資源としてその利活用を促進します。

<内容>

- 能登半島国定公園の拡張を通じた「30by30」の実現
- 「のとSDGsトレイル (仮称)」の創設 など



(祿剛崎 (珠洲市))

(写真) 石川県観光連盟

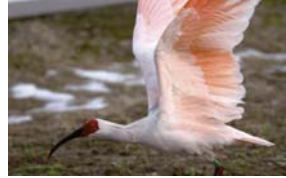
創造的復興リーディングプロジェクト

(取組12) トキが舞う能登の実現

能登復興のシンボルとして、トキが半世紀ぶりに石川・能登の大空を舞うという夢の実現に向けた取り組みを進め、トキと人が共生する豊かな里山里海を未来の世代へつなげていきます。

<内容>

- トキの放鳥・定着に向けた餌場等の確保・整備
- トキをシンボルとしたブランド化等の地域活性化など



(取組13) 産学官が連携した復興に向けた取り組みの推進

能登をはじめ石川全体の活力の創出を図り、石川の成長に繋げるため、産学官が連携した支援体制を構築し、復興に向けた象徴的なプロジェクトの支援・実施に向け、取り組みます。

<内容>

- 「産学官石川復興プロジェクト会議（仮称）」の設置

